

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	2072900349		
法人名	社会福祉法人幸充		
事業所名	グループホームくらし		
所在地	長野県北安曇郡松川村字南神戸4360-19 (電話) 0261-61-1836		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年3月18日	評価確定日	平成21年4月11日

【情報提供票より】 (平成21年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 4月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 28,000円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(平成21年 3月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護 1	2	要介護 2	4
要介護 3	2	要介護 4	1
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 85 歳	最低 79 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・厚生連安曇総合病院 ・大北歯科医師会
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

真っ白に雪化粧した北アルプスが麓の里山を前に所々で見え隠れし、眼前には広々とした田園風景を、背後には雄大な赤松林を望める、そのような場所に介護老人保健施設ライフ2に隣接した当ホーム「くらし」がある。母体ともいえる老健に催し物がある時には出かけて行き楽しみ、また大きな岩風呂を温泉変わりに利用したり、更には緊急時にいつでも駆けつけてくれる等、隣接施設を大いに活かして入居者の楽しみや安心につなげている。医師である管理者が考案した判定表がある。職員はその判定表を用いて個別支援に役立てている。そして管理者は地域密着 の実施にあたりホームが他市との境界線に建っているため、道をはさんだ隣の人でも利用できない制度の縛りに疑問を投げかけている。「入居者がのぞむことは、可能な限り行なう」を日々実践している頼もしいホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	充実した職員体制となり、地域とのかかわりも深められている。馴染みの関係で入居者とも相互に支えあうができています。研修も積極的に行なわれるようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが取り組み計画作成担当者がまとめた。職員からは「難しかった」、「これは出来ている」、「頑張っている」などの声が聞かれ、振り返り、考える良い機会になった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今までは活動報告や質疑応答を中心に行なってきた。次年度からはホームが実際何をやっているのか、あるいは入居者との関わりはどうかを現場で見させていただいたり、入居者とのコミュニケーションの機会もつくりたいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	仕事への慣れからくる家族などからの指摘事項に職員全員で注意し、不快を感じる行動にならないよう心がけている。家族も1~2ヶ月に1度は来訪されているので、その折に入居者の近況を伝え、家族の意向をお聞きするようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園児、小中学校の児童・生徒との交流、窓拭きのお手伝いに来ていただいた地区老人クラブ会員とのふれあい、社協からのお誘いで映画鑑賞・ラベンダー摘み・ソーメン流し等に参加する等、地域の人々と関わる機会を積極的に設けている。個人情報なども考え、ボランティア活動などには意図を持って来ていただいている。回覧板を回していただいております。地域の掃除等にも参加して行きたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は法人の理念をホームとしての理念に置きかえ、玄関にも掲げている。地域密着に関しては制度改正後、「地域住民の交流のもと」という考え方が加えられているが、当ホームが他市との境界線にあるのですぐ隣であっても利用できないという制度の縛りに疑問を感じている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に理念を確認し共有している。また、隣接する老健の朝礼にも参加し、管理者が所要所や職員会議で話をし、職員に気づきの機会をもたせている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児や小中学校の児童・生徒との交流、窓拭きのお手伝いに来ていただいた地区老人クラブ会員とのふれあい、社協のお誘いでの映画鑑賞・ラベンダー摘み・ソーマン流しに出かける等、地域の人々と関わる機会を積極的に設けている。個人情報にも配慮しつつ、ボランティア活動に来て頂いている。回覧板を回していただき、地区の掃除等への参加も検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に取り組み、計画作成担当者がまとめている。職員からは「難しかった」、「これは出来ている」、「頑張っている」などの意見が出、サービスを振り返る良い機会になった。外部評価結果については職員と検討する予定である。		

グループホームくらし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回、区長、包括支援センター職員、民生委員、入居者家族などで行なわれている。今までは活動報告や質疑応答を中心に行なってきたが、今後は実際の現場を見る機会をつくったり、入居者家族の参加が持ち回りであることから、もっと多くの家族と深い関わりをしたいと考えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	短期入所について要支援の方にも入所していただき予防に心がけていきたい旨を広域連合の事務局にも伝え、連絡を取り合っている。入居者の申請代行などで村職員とも連携を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族も1~2ヶ月に一度は入居者の薬を持参するなど必ず面会に来ており、居室担当職員と連絡を取り合い、「くらし新聞」も渡している。薬のない入居者の家族には電話で来訪をお願いすることもある。金銭の使用状況については来訪時確認印を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前、家族との会話中にポケットに手を入れ話をしていたことを指摘されたのを受け、全職員で姿勢を正した。仕事の慣れにより相手に不快感を与える行動が出やすいので、職員間で話し合いをもち注意するよう心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の都合や職員の将来性を考え異動することがある。交代の場合は1ヵ月半新旧担当職員をダブル配置し、入居者の個々の性格などを伝え、ダメージを防ぐようにしている。今年度は昼間3人体制となり、入居者の不安も解消された。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画があり、職員の力量に応じて出席するようにしている。最近管理者が新潟県に赴き、天災にどのように対応したらよいかの講義を行なっている。管理者は常に良きスーパーバイザーである。法人の新任職員オリエンテーションには今年度からそれぞれの部署担当者が説明するようになる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成20年度は宅老所グループホーム連絡会に入会し、ネットワークづくりに参加している。来年度は県グループホーム大北支部にも参加し、一般職員も交流予定である。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に当り見学や一日体験、一泊の入居体験等をしていただき、その上で利用を開始している。一日来ることで覚えている方もおり、入居後もスムーズな生活に移行出来ている。グループホームの会議でも事前の書類等に目を通し、職員間で検討を加えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問時若い職員に入居者が「他の家の旨い料理を習っておいで。そうでなければお嫁に行けないよ。」と諭し、若い職員も素直に「そうだね」と頷く場面を見ることが出来た。支え、支えられるという信頼関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「眠いから昼食は後で・・・」という入居者が午後1時30分過ぎ満足そうな顔で職員に話しかけながら食べ始めた。また、昼食時一旦席に着いたがなかなか食が進まず、同じ頃の時間に食している入居者がいるなど、一人ひとりの気持ちを受け止め支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を聞き、職員会議でのカンファレンス時に職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成してい。家族にも説明し、確認のサインを頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しを基本とし、状態が変わればそれが一過性かそのまま続くのか看護師との話し合いで見極めている。モニタリングは毎日行い、プランが達成されているかどうかの確認をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昨年4月から「短期入所」が開始された。申請代行、往診の対応、家族が受診に付き添えない時は家族に代わり付き添っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医で受診している。家族が通院に付き添う時には必要に応じて情報書を作成して、かかりつけ医との連携を取るようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアに関しては行なっていないが重度化した場合については家族に説明し了解を得ている。重度化した時には家族、管理者、職員が話し合いを持ち、行き先が決まり移動するその日までホームの利用は継続できる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護の徹底や個人情報の漏洩防止については掲示等により注意を促している。職員の仕事への馴れと気の緩みから、入居者に対する言葉づかいや家族への対応などに配慮を欠く場面もあることから話し合いをし、入居者の尊厳を守るようになっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に応じて参加できるような職員が見極めをしている。また、入居者の個々の力が他の人のために役立っているという気持ちを大切にしている。職員が持病のある入居者に「大根おろしありがとう。この器の中に盛られているのが○○さんにおろしていただいたものですよ。」と感謝の言葉を伝えていた。		

グループホームくらし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の焼き魚に「ホッケ」が出された。「一緒に買い物に行きこの魚を選ばれました。以前は肉もありましたが、このところ選ばれるのは魚が多いですね。」と買い物の現場でその日の献立が決まることが多いという。入居者が昔食べていたと思われる煮物、合え物、焼き魚が良く食卓に上ると伺った。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂場は脱衣場を真ん中にして大小2ヶ所あり、時間も午前9時から午後6時30分まで好きな時間に一人あるいは2人で楽しんでの入浴ができる。また、隣接老健の大きな岩風呂にお風呂セットを持参し、温泉気分を楽しむこともある。菖蒲湯、ゆず湯、りんご湯等でも楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個別支援で月に1回お寺参りに行かれる方もいる。昼食後の昼寝の時間に職員と花札を楽しみ、他の入居者も加わり、賑やかな笑い声が聞こえ楽しそうであった。「勝ちましたか？」の問いかけに「負けた!」と言いながらも明るい答が返ってきた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日にはホームの周りを散歩している。車でお花見や白鳥公園へと出かけることもある。最近では回転寿司に出かけている。買い物は職員と3人程の入居者で出かけ、日用品、食材などを買うようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間以外かけていない。かける場合は家族の承諾を得るようにしている。職員は鍵をかける事の弊害を認識している。		

グループホームくらし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、隣接老健と一緒に防災訓練を行っている。2回のうちの1回はホームを主体とした訓練が行なわれる。緊急の通報装置は老健につながり、老健から消防署に行くようになっている。今年はホームを主体とした訓練時に炊き出しもやってみたいとの意向で進んでいる。	○	防災訓練に参加出来ない夜勤専門職員も参加し、夜間想定も含めた訓練等で全職員に徹底できるよう工夫されることを望みます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は個別の食事摂取量、ADLレベルチェック表等により入居者の摂取状況を共有している。「好き嫌い表」も冷蔵庫に張られていた。隣接施設の栄養士に治療食のことや食べられなくなった場合等、入居者の摂食状況に応じ相談をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は吹き抜けで、天窓からの採光も明るく、床暖房などで居心地が良いので入居者は一日のほとんどをここで過ごしている。壁には早出、日勤、遅出、夜勤の職員の大きな顔写真が貼られている。1ヶ月遅れのお雛様も飾られ、「ここは1ヶ月遅れのひな祭りだよ」と入居者から説明を受けた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室濡れ縁があり欄間の窓も備わっていて、家庭的な雰囲気を感じさせる。居室には各入居者を撮った写真を加工したカレンダーが壁に貼られており、「私の部屋」という感じを強く受けた。家族の写真、誕生日のコメントもあり、思い思いの居室づくりがされている。		

※  は、重点項目。